



# 特定非営利活動法人 チャレンジ企業支援隊 会報

Vol. 23 2019年2月6日

発行:理事長 山崎健一郎

TEL&FAX 0742-41-7839

編集(広報担当):副理事長 馬場英彦

TEL 0743-75-1658 E-mail bamba@m4.kcn.ne.jp

## 巻頭言

(理事長 山崎健一郎)



新年明けましておめでとうございます。昨年中に皆様方から賜りましたご支援とご協力に対し厚く御礼申し上げます。

さて、今年はどんな年になるでしょうか。毎年1月1日の新聞

各社 社説の共通キーワードを見つけ、その年の予測をすることを続けています。ところが今年はまだにも各社バラバラで共通項を探すのが困難でした。参考までに社説のタイトルを紹介します。

- ◆日経新聞：不確実性にたじろがず改革進めよ
- ◆朝日新聞：政治改革30年の先に 権力のありかを問い直す
- ◆毎日新聞：次の扉へ AIと民主主義メカニズムの違いを知る
- ◆読売新聞：米中対立の試練に立ち向かえ 新時代に適した財政・社会保障に
- ◆産経新聞：さらば、「敗北」の時代よ (注) 社説ではなく論説委員長談

亥年は災害が多いとも言われています。このような先行き不透明で不安定な時代は、世間の動きに惑わされず、自らのやりたい事、自らのやるべき事を実行すれば良いと思います。

新しい事業・顧客の開拓なくしてNPOの継続は難しいと痛感しています。その為会員を増強もはかり、「チャレンジ企業支援隊 運営理念」を堅持して、事業の推進を図って行く決意を致しております。

### <チャレンジ企業支援隊 運営理念>

社会貢献を基本精神とし、人的なネットワークと連携を大切にしながら、会員の経験・知識・専門技術を活かし、中小企業やベンチャー企業などの支援を通じて、経済社会の活性化と地域社会の健全な発展に寄与する事を目指す。

今年も、中小企業様の人づくり、課題の解決等に尽力して参ります。引続きのご支援とご鞭撻をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## モノづくり部会の活動内容と抱負

(副理事長 モノづくり部会長 阪本 徳男)



モノづくり部会は、次の7つの活動を柱に取組んでいきます。

### 1)モノづくり部会(毎月開催)

GMS・部会活動の打ち合わせ・各員の活動状況相互紹介・情報連絡に加え会員のGMS以外のNPO活動、イベント参加報告、デジカメ・PC教室を行うと共に中小企業出身の方々に支援の在り方等についてもアドバイスを頂いています。今年3名の方々にオブザーバー参加を頂き、1名は入会頂き、今後内容の充実を図り共有課題を論議して行きたいと思っております。

### 2)GMS 経営勉強交流塾

企業一社では訪問が困難な企業訪問をGMSが訪問先を選定・準備を行い、企業の優れた点を工場見学で学び、質疑応答で自社の経営課題の解決

の導く参考とする事を目的としています。

昨年は4月に東大阪



見学・会議終了後の記念撮影

市の企業様を訪問させて頂き、会社概要・工場見学さらには課題などについてお話を頂くと共に、GMS会員の発表と相互の意見交換を通じて課題解決の糸口を探ってみました。7月には今年創業100周年を迎えたPanasonic社の社内スタートアップ施設として、交流の場、実証の場、発信の場のワンダーラボ大阪とPanasonicの"心"を未来に伝承したいという思いから、開設した松下幸之助歴史館、ものづくりイノベーション館を訪問し松下幸之助の経営観、人生観を学びました。

今後は新しいヒューマンネットワークで新訪問企業の発掘と新参加企業の勧誘にも力を入れて行きたいと思います。

### 3)次代を担う経営人材づくり実践塾

関西で健全な中小企業が後継者難で事業を断念したことによる損失が約4兆円とお聞きしています。これは国家的損失であり、しかも日本の中小企業は独自の技術・製品・サービスを持っているところが多く日本の競争力の源泉ともいえると理解しています。



実践塾の受講者と部会メンバー

GMSがこのような状況を打破するのに少しでもお役に立てればと思い、「次代を担う経営人材づくり実践塾」を企画、5月に開講し、3社の経営幹部が参加、11月には二期目を開始し、2社が参加して頂いています。

4)ISO9001:2015定期審査支援

### 4)ISO9001:2015定期審査支援

奈良県企業様の要請に基づき、ISO9001:2015取得後の運用フォロー支援を実施しました。

5) (株)FUDAI「経営者養成塾」にて「資材購買」講義 (株)FUDAIが企画運営する中小企業の経営者養成のための塾活動の年間カリキュラムの中の「モノづくり」に関する科目として「資材購買の基本」と「戦略的購買」の講義を担当しました。

### 6)一般社団法人関西産業活性協議会(KIAC)との連携

本年はKIAC調査事業として、サポイン企業3社を訪問し、サポイン事業の現状と課題、PRシートについてヒアリングを行いました。

### 7)中小企業様支援に関するセミナー、展示会での情報収集

関連インターネット情報に加え、中小企業様の支援の情報入手、ネットワーク構築の為に、研究・イノベーション学会、サポイン事業説明会、機械要素技術展、CEATEC、IBM生産革新フォーラム、事業承継セミナー、ネオマテリアル研究会等精力的に参加しました。

本年もヒューマンネットワークの拡大、中小企業様支援に関する見聞を拡げ、支援拡大を図って行くと共に、情報発信の充実に努めたいと思います。

最後にモノづくり部会は伝統と革新のベストミックスで活動を継続し、本年は中小企業様の支援として新規企業様の支援を新しい制度と新しい支援内容で検討していきます。皆様のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

### マーケティング部会の活動内容と抱負

(副理事長 マーケティング部会長 馬場 英彦)



当部会では毎月の部会をプラットフォームホームとして、メンバーの持つ人脈やノウハウを結集し若い企業や地域社会に貢献して参ります。

1)マーケティング部会は本年1月で第172回を迎えました。

時代を反映した先進の企業様や課題を抱えた企業様を部会(プラットフォーム)にお招きし、あらゆる情報交換の場として支援活動をしています。

具体的には、企業様の商品の訴求方法のご提案や商品に相応しい販路のマッチングのご紹介などメンバーの人脈を駆使して、お役立ちを実践しています。

又、部会は大阪市立デザイン教育研究所で開催し、デザインを志す学生へのミニ講演を通じて、産学連携のプロジェクトも生まれています。

### 2)部会で生まれた「~KaRaNoプロジェクト」を推進します。

人生90年時代はシニア世代が大いに期待されています。このプロジェクトは企業内の50歳から、定年までの後半こそ最も自己の能力を發揮して所属する企業や組織に貢献するためのプログラムです。そして、その経験を基盤に定年後もさらに第二の人生に挑戦できる事を示しています。



研修案内のチラシ

### 3)産学協働で新規ビジネスの提言

大阪市立デザイン教育研究所との産学連携で、学生が新たな起業構築を模索しています。日刊工業新聞社が主催する「第20回キャンパス・ベンチャー・グランプリ大阪」では、建材企業との協同で廃材を活用して、玩具製作会社の起業を企画し、2年連続で入賞を果たしました。



受賞式の様子

#### 4) 企業様とのマッチング支援活動

神戸川上・川下ビジネスネットワーク事業の支援活動として、兵庫県信用金庫協会様との連携で、企業様を訪問し、経営課題やニーズ・シーズを発掘し、ビジネスマッチングや販促支援活動を行っています。

企業間のマッチングや産学協働支援活動を昨年引き続き実施します。具体的には、部会メンバーによる販売先の開拓・紹介やデザイナーが企業様の新製品を店頭で分かり易く展示するPOPの開発制作支援等を行っています。

#### 5) 手帳メーカーA社への支援活動

A社様は70数年の歴史を持つ企業であり、中期計画を目指して、従来の主力商品に並ぶ文具商品の開発を進めておられ、お客様発想の商品作りを支援しています。特に、創業100周年を目指した取り組みに衆知を集めて取り組んでいければと思っております。

#### 6) 季刊誌への編集支援

暮らしの視点を大切に「子育て」「親子」「夫婦」「家族」などの課題に取り組む団体が発行する季刊誌「おうらい」へ、本年度も引き続き会員による創作童話「はばたけ！1、2の3」とイラストを提供します。

### 『奈良県よろず支援拠点』発足から四年半経過

奈良県よろず支援拠点チーフコーディネータ  
(理事 松村 二郎)



事業担当理事の松村です。  
今年もどうぞよろしくお願いたします。

2014年6月に中小企業・小規模事業者の為の無料経営相談所として各都道府県に一か所設置され、全国一斉にスタートしたよろず支援拠点は、発足して4年半が経過しました。私が責任者(チーフコーディネータ)を務める奈良県よろず支援拠点では、年々相談件数が大きく増加し、現在は毎月500件を超える相談を受けています。ご相

談事業者の満足度も極めて高く、おかげさまで地域活性化のハブ機能としての役割を果たせつつあると喜んでおります。

近鉄奈良駅前のサテライトオフィスでは、夕方や土曜日もオープンしています。また週3回以上の頻度で県内の各支援機関と連携したセミナーや出張相談会を実施し、そして、昨年9月からはテレビ相談システムを導入し、遠隔地の事業者の皆様への利便性アップに取り組んでいます。

このような活動により、当拠点の知名度は65%にまでなりました。今後更に事業者の方々に寄り添い、事業者に成果がしっかりとあがる支援をしなければならぬ、と決意しているところです。

相談内容の内訳は「売上拡大」「創業」がそれぞれ38%を占め、「経営改善」が17%、「事業承継」が7%となってい

ます。  
今年から『創業から事業承継まで』を当拠点のキャッ

チフレーズに、事業者のライフステージに沿ったあらゆる経営相談の対応に取り組んでいます。

今年度の当拠点の活動目標は①奈良県中小企業・小規模事業者支援のハブ機能を強化②創業支援、事業承継支援の強化で、新しい事業の担い手創出機能の強化③フォローアップの徹底によるお客様満足の向上、の三点で、私とアシスタントのコーディネータ(経営相談の専門家)12名、事務スタッフ3名の16名体制で対応にあたっています。

4月から事業6年目となる新年度となります。当拠点のパワーを更にアップし、事業者に徹底的に寄り添い、事業者の皆様と一緒に経営課題を解決し大きな成果をあげてゆくことを力強く推進してゆきたいと思っております。

皆様のご理解とご支援を、今年もどうぞ宜しくお願いいたします。



メンバーを増強(全員集合)

## けいはんなまちづくり協議会の事務局活動

事務局長 (理事 井原 章)



けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会(会長:ケーピーエス工業(株)常務取締役前川弥須彦氏)は、2009年(平成21年)8月に設立され、けいはんな学研都市の精華地区に拠点を構える企業が会員となり、学研都市に

相応しい環境を維持発展させるとともに企業間相互の連携を深め、地域の発展に寄与する目的で活動を行っています。

現在の会員数は28社。GMSは設立時から事務局業務を受託し、協議会として必要な運営規約・規程の制定や協議会の目的を効果的に達成するための具体的な活動企画と実施をマネジメントし、協議会活動の活性化に貢献しています。

まちづくり協議会は、平成30年度で創立10周年を迎えました。この節目を期に、これまでの活動成果を踏まえ、更なる地域社会との協働でけいはんな学研都市に相応しい良好な環境を構築する活動を進めています。具体的には、けいはんな学研都市で活動されている多くの団体との積極的な交流や地域の住民の方々が多く参加される各種イベントへの積極的な支援などです。

他団体との交流としては、公益社団法人京都産業21の代表の方の

理事会へのオブザーバー参加、総会や理事会での情報提供交流などです。次年度からは、精華町商工会の代表の方も理事会へオ



けいはんなプチコンサートの様子

ブザー参加し交流頂ける予定となっています。また、各種イベントへの支援としては、けいはんなプラザで開催される「けいはんなプラザ・プチコンサート」や「ふれあいコンサート」、けいはんな記念公園で開催される「観月の夕べ」などを支援しています。

今後もけいはんな学研都市の発展に積極的に貢献する活動を企画し実施して参りたいと思います。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

## 会員からの投稿

株式会社決断力 高島徹(正会員2015年入会)



現在は、企業研修の講師、経営者向け講演、Eラーニング教材の提供を行っています。私自身は「ベストを尽くしたいあなたの決断と行動をプロデュースする」ことが仕事だと考えています。

私は50歳の誕生日に起業を決断しました。大企業は、とかく組織間に仕事が溜まりやすいものです。

現役時代、その問題解決をプロジェクト化して、28年間で85個の問題解決を行ってきました。

もうこれで自分の仕事はやりきった!と感じ、これからは会社や先輩から教えて頂いたことに、私の経験をプラスして、社会に恩返しをしたいと思い起業しました。お客様ゼロから起業しましたので、とても大変でした。自分で研修会社に企画を持ち込み、企業や自治体にテレアポ営業も行いました。こうした努力が実を結び、少しずつお客様が増えてきました。今では、民間企業だけでなく、自治体や人事院、経済産業省の課長級研修も行うことになりました。現役バリバリのプロジェクトマネージャー3000人が集うシンポジウムで優秀講演賞をただ一人頂ける講演力と人間力を身につけました。

起業を成功させる要因はいくつかありますが、自分で決断し行動する。紹介してもらえるようにするためにわかりやすく持ち味をまとめる。紹介してもらえるための人間性を高める。の3つは必須です。

サラリーマンを長年やっていると、これら3要件すべてができない状態になっていることを、本人自身が気づいていません。

人生100年時代とは、大学を出て定年退職するまでと同じだけの時間をどうやって過ごすかを考えなければいけないのです。お金や健康ももちろん大切ですが、本当に大切なのは人間関係づくりです。自分で決断して行動する。誰かの役に立ち続ける。そうすれば、寂しく過ごすことはありません。私は大学の同窓会の幹事役も行っていきます。こうしたご縁から、人間関係が年々広がっています。誰かにしてもらうことを当たり前だと思わない。誰かにお役に立つことを人生の喜びだと思う。そうすれば、「よかった〜」と心から思える人生になります!